

受注者用

# 工事事故対応マニュアル

令和8年4月

新潟県土木部都市局営繕課

## 目 次

1	近年の事故発生状況	．．．	2
2	事故発生時の対応	．．．	3
3	その他	．．．	7
	(1) 事故防止のポイント		
	(2) 過去の事故概要と事故防止対策例		

## 1 近年の事故発生状況

当課発注工事の事故発生件数について、年度別ではR4年度21件ありましたが近年は減少傾向により、令和7年度は3件に減少しています。（「配管・配線の切断」が大幅に減少）

月別では、8月・10月が19件と最も多く、工事繁忙期となっている7月～10月までの間に事故が集中しています。

分類別では、「作業による怪我」と「作業における物損」で全体の50パーセントを占めており、施工計画（安全管理）の策定に当たっては、実際の作業内容・環境を踏まえた『細かな危険への配慮』が重要です。

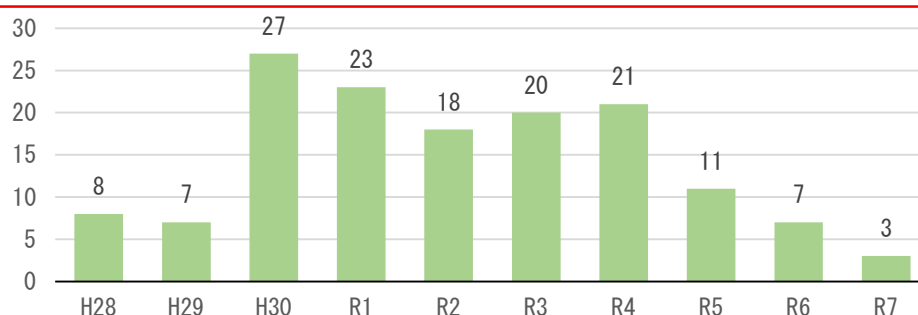


図1 年度別の事故発生件数（直近10年）

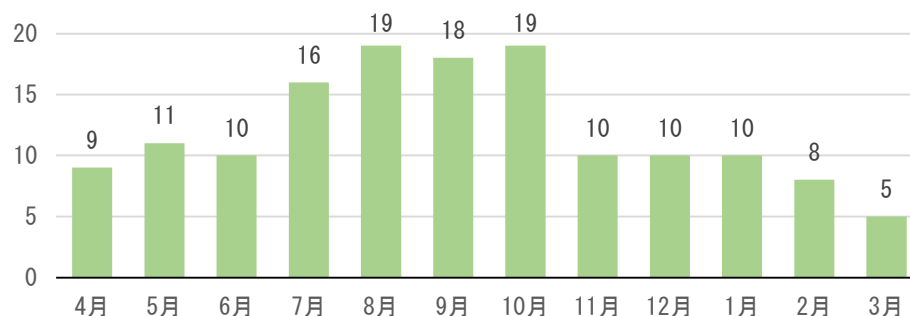


図2 月別の事故発生件数（直近10年）

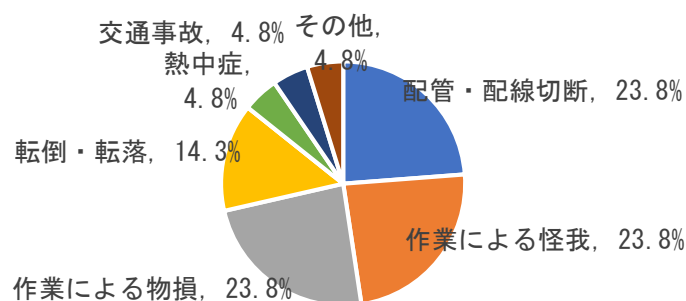
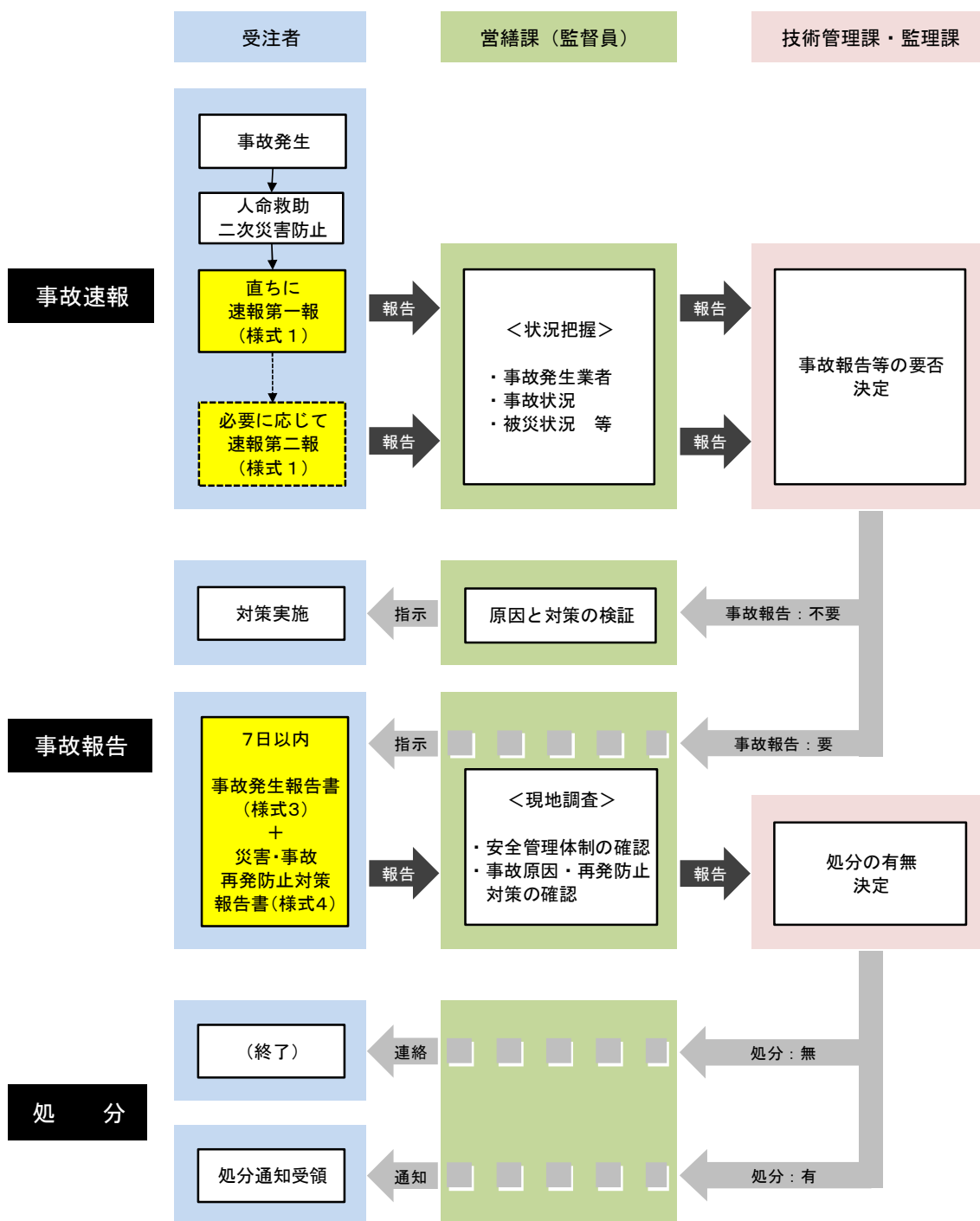


図3 分類別の事故発生割合（直近3年）

## 2 事故発生時の対応

工事事故が発生した場合は、人命救助を第一とし、二次災害防止の措置を講じるとともに、次のフローに従って速やかに報告等すること。（様式は次頁以降を参照のこと。）



事 故 速 報  
( 第 ○ 報 )

公 衆 (死亡・負傷・その他)  
現場関係者 (死亡・負傷・その他)

年 月 日

発 信 者			
工 事 名 等			
1 発 注 者			
2 工事番号・名称			
3 施 工 地			
4 契 約 金 額			
5 工 期	年	月	日
業 者 名			
受注(受託)業者	事故を起こした業者( 次下請)		
住所	住所		
商号	商号		
代表者	代表者		
入札整理番号	入札整理番号		
事 故 概 要			
1 発 生 日 時	年	月	日 午前・午後 時 分頃
2 事 故 内 容			
3 被 災 者			
4 そ の 他			

(備考) 委託業務の場合、「工事名等」欄を適宜読み替えること。

(様式3)

年 月 日

( 発 注 者 名 ) 様

住 所  
請負業者名  
代表者氏名

## 事 故 発 生 報 告 書

### 1 事故発生工事等

- (1) 発注者名
- (2) 工事等名
- (3) 工事等場所
- (4) 契約金額
- (5) 工期
- (6) 事故を起こした業者  
住 所  
商 号  
代表者氏名

### 2 事故概要

- (1) 発生日時
- (2) 事故内容
- (3) 事故原因
- (4) 被災者  
氏 名 ( 歳)  
死亡・負傷の別  
負傷の場合はその内容

### ※ 添付書類

- 1 所轄労働基準監督署へ提出した労働者死傷病報告書の写し
- 2 診断書の写し(死亡事故の場合は、死亡診断書・死体検案書の写し)
- 3 事故現場の図面、写真等
- 4 事故防止に関する誓約書
- 5 事故防止対策書
- 6 施工体系図
- 7 その他参考となる資料

(公衆事故の場合は、添付書類1は不要。物損事故の場合は添付書類2は不要であるが、被害状況が分かるものを添付のこと。)

## 災害・事故 再発防止対策報告書（受注者作成）

雇用 事業者名		休業見込 日数		勤続年数	
当事者 氏名		傷病の 程度			
発生日時		作業の 区分  (該当に○)	①	本人の通常行っている業務	
職 種			②	たまに行う不慣れな業務	
被災時の 作業内容			③	予定外の業務（本人の担当ではない）	

## 発生状況

どのような状況で	
どのような原因で	
災害（事故）の程度	

## 発生原因の究明並びに再発防止対策

1 今回の災害（事故）における原因は（該当すると思われるものに○）	
具体的には	
A 作業方法の誤り	⇒ _____
B 作業配置の誤り	⇒ _____
C 作業順序の誤り	⇒ _____
D 資格の不備	⇒ _____
E 体調の不良	⇒ _____
F 設備面の不備	⇒ _____
G その他の原因	⇒ _____
2 上記に挙げた原因が生じた理由	
原因（ ）が生じた理由	_____
原因（ ）が生じた理由	_____
原因（ ）が生じた理由	_____
3 上記の原因に対して、再発防止のために改善する事	
原因（ ）に対する改善方法	_____
原因（ ）に対する改善方法	_____
原因（ ）に対する改善方法	_____
4 上記の改善方法を今後の再発防止に繋げる方法	
事業主として改善する事	_____
組織として改善する事	_____
本人に対して改善を図る事	_____
・ 雇用・事業主（受注者）としてのコメント	

新潟県知事

殿

報告日  
会社名  
事業主

㊟

### 3 その他

#### (1) 事故防止のポイント

工事事故の多くは、ヒューマンエラーによるものであり、事故防止のためには、現場に関わる者がこれらを十分認識した上で、対策を講じる必要があります。

##### <ヒューマンエラーの種類>

項 目	内 容
① 無知、未経験、不慣れ	作業の危険がどこに潜んでいるか分からない。
② 危険軽視、慣れ	危険と分かっているにもかかわらず受け入れ、不安全な行動をとってしまう。
③ 不注意	人間は一つのこと集中すると他のことには注意を払えない。
④ 連絡不足	安全指示が上手く伝わらない。
⑤ 集団欠陥	組織内で至上命題が明確になると、その達成にあらゆる努力が注がれる。 例) 工期が厳しい→工期第一、安全第二のような雰囲気生まれる。
⑥ 近道・省略行動本能	面倒な手順を省略し、効率的に進めたい。 例) 昇降足場が遠いので、足場をよじ登る。
⑦ 場面行動本能	瞬間的に注意が一点に集中すると周りを見ずに行動する。 例) 落としそうになった工具をつかもうとして足場から転落する。
⑧ パニック	非常に驚いたときや慌てたときに、脳は正常な働きをしなくなる。
⑨ 錯覚	合図の見間違い、聞き間違いなど。
⑩ 中高年の機能低下	足腰の衰え、視力やバランス感覚などの身体機能の低下。
⑪ 疲労等	疲れると意識レベルが低下し、ミスを犯す。
⑫ 単調作業等による意識低下	単調な反復作業を続けると意識レベルが低下し、ミスを犯す。

(2) 過去の事故概要と事故防止対策例

年度	事故概要	事故防止対策（例）
R7	体育館内で足場組み上げ作業中、体調不良(ダルさ)を訴え、意識混濁のため救急車手配し病院へ救急搬送。熱中症と診断。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩所にエアコン、冷水器、製氷機を設置する。</li> <li>・ファン付きの作業着を着用させる。</li> <li>・休憩時に必ず経口補水液等を取るなど徹底させる。</li> </ul>
R6	給水管敷設のため、床のコア抜きを行ったところ、埋設されていた電話線、光回線を切断した。事前に既存図面で埋設位置の確認を行ったが、既存配管の経路が不明であった。類似工事の状等から経路を想定して作業を行った。	床のコア抜きに当たっては、機器を用いた探査（非破壊検査）の実施など事前確認を徹底する。また、非破壊検査の実施が難しい場合は、予め配線を撤去・復旧する想定とし、関係者に周知のうえ、配線業者を待機させたうえでコア抜き作業を行う。
R5	現場から退場するため、工事車両を転回・後退させた際、玄関スロープの手すりに接触した。作業員の誘導がない状態で車両を後退させた。	作業開始前に作業周囲を確認し、近接物がある場合は、注意喚起のためにカラーコーン等を設置するとともに、誘導員を適切に配置したうえで、作業を行う。
	外部足場上で外壁の調査を行っていたところ、足場の布板の一部が外されていることに気が付かずに、転倒した。直前に、別業者が無断で布板を取外して搬出作業を行っていたが、立ち入り禁止措置等が取られていなかった。	足場板を外すことの危険性を作業員に認識させ、足場形状を変更する場合は、安全上支障がないことを元請けが確認したうえで、各業者に周知徹底させる。
R4	給水管改修において、壁のコア抜きを行ったところ、壁に埋設されていた電線を切断した。事前に既存図面で埋設位置の確認を行ったが、現地で機器を用いた探査までは行っていなかった。	壁のコア抜きに当たっては、機器を用いた探査（非破壊検査）の実施など事前確認を徹底する。また、非破壊検査の実施が難しい場合は、コア抜きを行わない施工方法（配管ルートの変更等）も含めて検討を行う。
	地盤改良工事としてセメント固化材の攪拌作業を行ったところ、隣接する駐車場の車両にセメント粉塵を付着させた。	飛散状況を監視する責任者を定め、風による飛散状況を注視し、状況に応じて作業の中止や散水養生等の追加の飛散対策を実施する。
R3	配管の埋設作業のため、敷地通路部の側溝の一部を撤去した	施工後の安全確認を徹底する。また、既存材料の変形等により再利用に支

	が、撤去により側溝のグレーチング受けが欠損し、一般車両が同側溝を通過した際、グレーチング(変形有り)が跳ね上がり、車両を損傷させた。	障がある場合は、改善方法を発注者に提案する。
	バックホウで敷地境界のコンクリートブロック塀の基礎を解体していたところ、埋設の引き込み給水管を破損し、止水作業のため周辺世帯を断水させた。	埋設管の位置を図面で確認するとともに、作業に先立って手作業による試掘を行い、目視で埋設管の有無を確認する。
	工事運搬車両をUターンのためバックさせていたところ、後ろに駐車していた施設車両に気づかずに接触した。	カラーコーンを設置し、駐車スペースと搬入路の区分けを行う。また、誘導員から誘導を受ける際は窓を開けるよう入場者の指導を徹底する。
R2	配管ピット内残水に油分が混ざっていることに気づかずに、公共下水道に排水し、下水処理施設の機能を低下させた	不明水のおいしさや水質を確認した上で、適切に処理する。KYミーティングにおいて、潜在する危険性を関係者間で共有する。
	屋根カバー工法施工時、荷揚げした新設屋根材の荷重と施工中の振動により、経年劣化した補修シーリングが破断し、建物内に雨水が浸入した。	事前調査の徹底と安全管理に対する注意喚起を行う。雨漏れ災害を引き起こしそうな所には、屋内にブルーシート養生を行う。
	16tラフタークレーンが空荷で旋回した時、アウトリガーが枕木から外れ、直接土に接する形となり自重にて埋没したことで、車体が傾いた。	傾斜地配置での嵩上げ設置時の枕木の本数を増やす。作業中は、随時枕木等の状況を確認する。
R1	コンクリートポンプ車の圧送配管(曲がり管)が、生コン圧送の圧力に耐えられず、破裂した。	通常の点検に加え、配管部材については消耗品としての交換時期を定める。
	仮設仮囲い設置のために、グラウンドに単管パイプを打ち込んだ際、水道管を破損させた。	今後の埋設物の調査で、図面資料で確認できない場合は試掘を行い、コンクリート壁内の埋設管への調査が必要な場合、非破壊検査による検査を実施する。
H30	既設構造物の寸歩確認のため、作業員が安全帯のフックを親	単管手すりと昇降設備を設置し、安全帯は2丁式フルハーネスを使用する。

	綱に掛けず、作業床に降り立ち、その後フックを掛けようとしてバランスを崩し、6.6m下の水路に墜落した。	新規入場教育、KY活動等により作業員に周知する。
	作業員の車が場内を通行中、油配管地下ピットに乗り上げ、そのはずみで蓋の縞鋼板が跳ね、車の燃料タンクに突き刺さり、燃料（軽油）が漏れ出した。	通路上の安全確認の徹底。危険箇所（地下ピット周囲）をカラーコーンで区画し、作業員に周知する。
	体育館ギャラリーから棚足場の作業床へ移動しようとしたとき、足を滑らし墜落し、負傷した。	必ず安全な経路を通行するよう徹底するとともに、事故が発生した部分については、メッシュシートを貼り、通行を制限する。
	荷揚げ作業中、上部作業者が手を滑らせ、資材が13m下に落下し、下部作業員者にあたり負傷した。	荷揚げ作業は、上部作業者と下部作業者の合図・声掛けを必ず実施する。荷の地切り後は、作業範囲には立ち入らない。
	天井材の一部撤去時、警備用配線を損傷させ、一部機械警備ができない状態にした。	天井下地材を撤去する際には、周囲に電線がないことを十分に確認する。また、下地材付近に電線がある場合は、複数人で電線に干渉しないことを確認しながら作業を行う。
H29	基礎工事の掘削や仮設構台の架設作業を行っていたところ、大雨により隣接地から大量の雨水が場内に流入し、山留裏側の土砂が流出したため、隣接地が沈下した。	山留め親杭の倒れ計測（1日3回）の実施、災害時を加味した山留めの再検討及び補強（斜材を追加）を行う。
H28	組み上がった型枠の上部で鉄筋圧接作業を行っていたところ、鉄筋圧接作業で発生した火花が、型枠内のスリット材（ポリエチレン発泡材）に着火し、型枠材に延焼した。	鉄筋圧接作業を行う時は、作業前後に型枠材及びスリット材に散水を行うことで、火花による着火を防止する。
	あと施工アンカーの穿孔作業中に電線管を切断し、一部の照明、コンセント、火災報知機、警備が停止した。	事前にマルチパスリニアアイレーダを用いて、コンクリート内の埋設管等を探索したうえで作業行う。
	照明器具等の撤去作業のため、	施設管理者への情報提供、作業前に既

	分電盤を調査していたところ、誤って他の回路のブレーカを開放したため、一部のコンセント及び照明の電源が遮断された。	存図面等の確認を徹底、複数の測定機器の使用、負荷名称の確認を徹底する。
H27	杭打ち作業時、杭打ち機の一部が誤って施設建築物の屋根に接触し、一部破損させた。	施工計画に近接作業に関する事項を必ず記入、作業計画も作成し、KYなどにおいて事前の確認を徹底する。
	深夜から未明の強風にあおられ、足場が倒壊し、隣接する体育館の屋根を損傷させた。	天候状況の確認の徹底し、補強足場の追加や足場メッシュシートの取外し等の対策を確実に行う。
H26	1階廊下の壁をコア抜きしたところ、校内放送配線を切断した。	事前に既存配管の位置を図面、探査機を用いて確認するとともに、作業員の安全意識の再教育を実施する。
H25	RC 庇の切断中に、溶融鉄筋がガラスに付着し、ガラスが熱割れた。	防災シートでガラス面を養生、コンパネで切断部分の養生をする。また、スラグの消化のため散水を徹底する。
	仮置きしていた型枠支保工補強材の落下により手を負傷した。	安全な仮置き位置を指定するとともに、注意喚起を強化し、作業手順書内容の再周知を全作業員に行う。
	解体した壁開口部をブルーシートで養生していたが、豪雨により雨が吹き込み、下階へ雨漏りを生じさせた。	雨養生として開口部の外側に足場を設置し庇とシートを取り付ける。養生を外す必要があるときは、気象情報より計画を立てて作業を実施する。
	外部足場の壁つなぎアンカーを施工中、埋設電線管・配線を切断した。	既存図で埋設配管や配筋を確認する。躯体内部の金属物探査は 50cm 角で探査し、反応物は広角でマーキングして、無反応のポイントを削孔する。メタルセンサー式ドリルを使用し、使用開始前のキャリブレーションで感知度を点検する。センサーが反応したときは躯体内部の存在物と状況を調査する。
H24	給水管を破損した。	全ての既存図面で埋設物を確認し、紛失図面は工事記録から施工業者を確認して図面の貸し出しを依頼する。必ず掘削箇所の試掘を、原則人力で行

	空調機器感震装置電源ケーブルを切断した。	う。 他課発注工事でも同一建物で施工する業者は災害防止協議会に含め、安全管理に対して周知徹底を図るよう指導する。また、事前調査、メタルセンサーの使用を再徹底し、新規入場者教育、KY活動で埋設配管損傷防止措置の内容について周知する。 常時通電が必要な機器をリストアップし、電源が切断されないよう、事前に切り回しを行い、万が一不足の事態が起きたときは、重要機器を重点的に調査する。
H23	スラブ型枠解体作業中に足場を2人で移動させようとしたところ足場が転倒し、作業員が負傷した。	KY活動での確認徹底を行い、当日の作業内容から必要とされる仮設検討の協議を行う。スラブ型枠解体作業は仮設を十分に検討する。移動を要求される仮設については、ローリング足場を使用し、安全性を第一に考える。ローリング足場を使用する際は、階高と仮設材料の寸法により接触の可能性があるため、手摺をいったん撤去して移動を行い、移動完了後復旧し、足場としての使用を開始する。
	PH1F部分の壁撤去工事中、当該箇所から雨水が浸入1～4Fの階段室床への浸水と天井への漏水、1F階段裏倉庫の物品が水没した。	PH階での水勾配の水下側の壁を解体するときは、水勾配の方向を確認し、仮設の、雨水を導くための堤防を作製するなど、降雨を予測した事前準備を行う。
	耐震補強工事での2階外壁解体箇所から雨水が廊下及び教室1室に浸水、1階事務室の天井に滴下した。	施工計画書で事前に外壁解体工事の雨養生を計画し解体作業前に雨養生を実施する。下屋屋上に繋がる壁を解体するときには、水上側であっても仮設の雨水を導くための堤防を作製し、周辺の雨水ドレーンの排水状況など、降雨を予測した事前準備を行う。